

咲かせよう、4つの花

- ❁ あいさつの花
- ❁ ことばの花
- ❁ げんきの花
- ❁ やるきの花

学校だより



平成26年10月30日

北九州市立筒井小学校

校長 門司 明

## 全国学力・学習調査の結果について

6年生を対象として、4月に全国学力・学習状況調査を実施いたしました。この調査は、国語と算数における基礎的な学力と発展的な学力、日頃の家庭生活や学校生活、学習の様子などについて、筒井小学校の子どもたちが、市や県、国の中で、どのような傾向にあるかということを確認し、これからの学校での指導や家庭での生活に役立てることを目的としています。調査からわかった筒井小学校の子どもたち（6年生）の学力や生活の様子、課題解決に向けての取組につつまして、以下の通りお知らせいたします。今後とも、家庭でのお子様の見守りと、本校教育活動へのご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果 (資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回っていた。特に、「言語についての知識・理解・技能」についてはポイントが高かった。しかし、「読む能力」については全国平均を下回っていた。読みを深める取組を進める必要がある。
	よくできた問題	漢字を正しく読んだり書いたりする問題については正解率が高かった。
	努力が必要な問題	複数の事柄を「～たり、…たり」という表現に直して書く問題については正答率が低かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を若干下回っていた。読みの指導を中心に手立てを講じる必要がある。
	よくできた問題	目的に応じて話し合いの観点を整理する問題については正解率が高かった。
	努力が必要な問題	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く問題については正答率が低かった。
算数A	全体的な傾向や特徴など	全体で全国平均を上回っていた。全ての領域でポイントが上回っていたが、特に、図形領域では、ポイントが高かった。今後も、チャレンジタイム等の取組を継続していく。
	よくできた問題	四則計算の問題や円周の長さを求める問題、二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表す問題については正答率が高かった。
	努力が必要な問題	立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係を問う問題については、やや正答率が低かった。
算数B	全体的な傾向や特徴など	全体で全国平均を上回っていた。しかし、「数量や図形についての知識・理解」では、全国平均を下回っていた。過去問題やアシストシート等を活用しながら、取組を進める必要がある。
	よくできた問題	リズムが重なる部分を公倍数に着目して記述する問題については正答率が高かった。
	努力が必要な問題	示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択する問題については正答率が低かった。

## ⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- 言語についての知識・理解・技能については、全国平均を上回り、よく身に付いている。
- 国語の学習に対する興味・関心をもっている児童の割合が、やや減少する傾向にある。
- 読むことと書くことに関しては、国語Bの結果からも、正答率が低くなる傾向がある。
- 読書活動を推進したり授業の振り返りを書く活動を位置付けたりして、読む力・書く力を高めていく。自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりして、日常的に書くことを授業に取り入れる必要がある。
- 算数の学習については、全体的な正答率が全国平均を上回り理解は進んでいるが、今後も学習に対する意欲を高める必要がある。

## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- 家庭学習の中で宿題をしている児童の割合や30分以上読書をしている児童の割合は、本市や全国の平均を上回っている。
- 1時間以上の家庭学習をしている児童の割合や復習をしている児童の割合は本市や全国の平均を下回っている。学校のきまりを守ることはできている。

### ⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

- テレビ等を3時間以上の長時間の利用の割合は、年々減少する傾向にある。
- テレビゲーム等の時間は、3時間以上の児童の割合が増加した。
- 将来の夢や希望をもっている児童の割合は全国を下回っている。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。

## 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上に関する職員会議の定期的な実施
  - ・全職員で問題を解く。(学テ・CRT)
- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
  - ・朝自習(チャレンジタイム)で全校一斉に実施
  - ・国語・算数の過去問題、アシストシート等を活用する。
  - ・小中連携サポーターの計画的な配置により、学習活動の補助やプリント整備等を進める。
- ◎ 思考力・表現力を高める
  - ・授業の中で、様々な表現方法を考えさせ、それを発表する場を設定する。
  - ・視点を明確にした話し合いの場を工夫して設定する。
- 読書活動の一層の充実

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別)
  - ・家庭学習時間の設定
  - ・「家庭学習のてびき」の作成・実施
  - ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシートを活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
  - ・学校だより・学校 HP